

9. Ama の潜水特性について

毛利元彦*¹⁾ 竹内久美*¹⁾ 川西奈緒美*¹⁾
池田幸應*²⁾ 白木啓三*³⁾

*¹⁾海洋科学技術センター
*²⁾金沢経済大学
*³⁾産業医科大学第二生理学教室

【目的】魚介類の捕獲や採草などを業とする潜水漁業従事者が日本各地で“アマ”（海士、海女）と呼ばれて活躍している。これら“アマ”の潜水特性を調査検討した。

【方法】現地調査は三浦半島松輪のかちど海士4名、房総半島白間津のふなど海士9名、舩倉島のかちど海女4名、ふなど海女4名についてデータレコーダ、ログを用いて潜水深度、R-R間隔、水温、皮膚温を1秒毎に記録し解析した。

【結果】“アマ”は20年以上の潜水経歴を有し、舩倉島の海女はすべて15歳より海女として潜水漁業に従事していた。

“アマ”の潜水回数、潜水深度および潜水時間はかちど海士が 109 ± 29 回、 6.9 ± 0.1 m、 37.0 ± 0.4 sec、ふなど海士が 23 ± 1 回、 9.7 ± 0.5 m、 68.5 ± 4.3 sec、かちど海女が 98 ± 2 回、 13.9 ± 0.6 m、 60.0 ± 1.7 sec、ふなど海女が 121 ± 4 回、 16.9 ± 0.5 m、 58.5 ± 1.8 secであった。

【考察】かちど、ふなど“アマ”の潜水特性に相違が認められたが、これは潜水漁業に従事している地域によって、その地域の特性に促した潜水パターンを示すものと考えられた。

10. 当院における減圧症の治療状況

川島真人 田村裕昭 野呂純敬
高尾勝浩 吉田公博
(医療法人玄真堂川島整形外科病院)

1981年6月～1995年5月までの14年間の減圧症の治療状況について報告する。

症例は男222例、女1例の計223例で全例潜水病であった。年齢は17～59歳にわたり、平均32.9歳であった。潜水方法はスキューバーが183例(82.1%)と最も多く、ヘルメット27例(12.1%)、フーカー12例(5.4%)、その他1例(0.4%)であった。病型はベンズが171例(76.7%)、脊髄型21例(9.4%)、脳型17例(7.6%)、チョークス9例(4.0%)、メニエール4例(1.8%)、ピユース1例(0.5%)であった。潜伏時間が明らかな193例を分類すると30分未満が133例(68.9%)、30分以上59分までが19例(9.8%)、60分以上119分までが14例(7.2%)、120分以上179分までが9例(4.7%)、180分以上299分までが9例(4.7%)、300分以上が9例(4.7%)であった。治療成績は、症状が完全に消失したものを良、症状が軽減したものを可、症状が不変のものを不可の三段階に分類すると、良208例(93.3%)、可13例(5.8%)、不可2例(0.9%)であった。